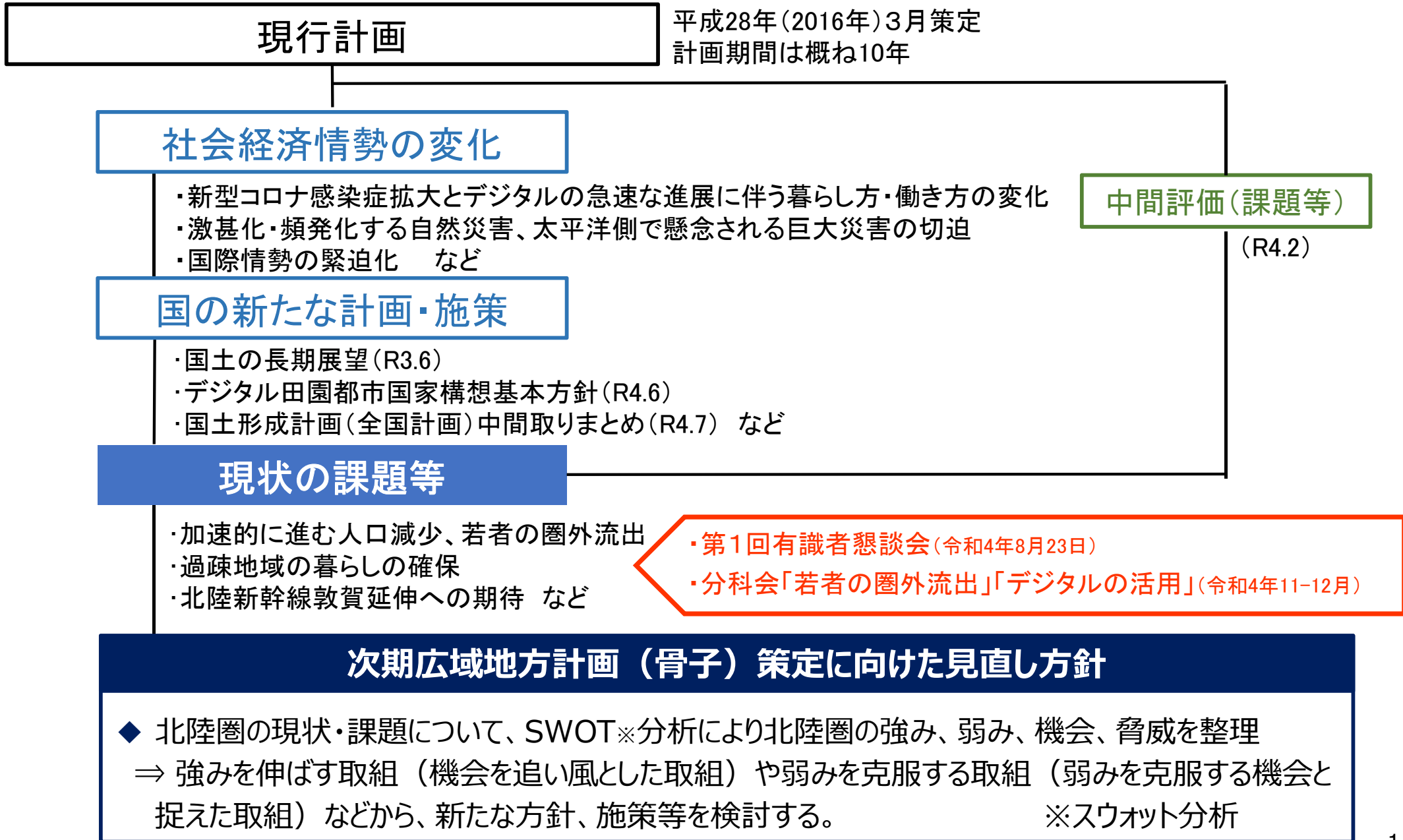


## ■ 現行計画に対する課題と次期計画の見直し方針



# 第1回有識者懇談会の意見の反映(SWOT分析)

	プラス面	マイナス面
内部環境	<p>■ 強み (Strength)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子育て環境が充実、学力が高い</li> <li>○ 都市の利便性と農山漁村のゆとりを身近に享受できる居住環境</li> <li>○ 豊かな自然、豊富な水</li> <li>○ 歴史・伝統文化、食文化、雪国の文化</li> <li>○ 特徴あるものづくり産業、最先端技術を活かした世界ニッチトップ企業の集積</li> <li>○ 高い再生可能エネルギー導入ポテンシャル</li> <li>○ 三大都市圏と等距離の地理的条件</li> <li>○ 太平洋側のバックアップ機能</li> </ul>	<p>■ 弱み (Weakness)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全国平均より進む人口減少、少子高齢化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・若者の圏外流出(特に女性の圏外流出)が多い</li> <li>・地方は人の移動が少なく、価値観が固定されやすい</li> <li>・医療・インフラの維持が困難、防災・福祉の地域力低下</li> <li>・農業従事者の減少と耕作放棄地の増加</li> </ul> </li> <li>○ 若者や女性にとって魅力的な仕事、働く場所が少ない <ul style="list-style-type: none"> <li>・第三次産業の種類が少ない、希望職種が少ない</li> </ul> </li> <li>○ 風水害や土砂災害、豪雪等の厳しい自然環境</li> </ul>
外部環境	<p>■ 機会 (Opportunity)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ デジタル技術の進展 <ul style="list-style-type: none"> <li>・テレワークの普及、スマート農林水産業など</li> </ul> </li> <li>○ 北陸新幹線の敦賀延伸 <ul style="list-style-type: none"> <li>・北陸ではほぼ全ての地域生活圏で新幹線駅を持つこととなる</li> </ul> </li> <li>○ リニア中央新幹線・スーパーメガリージョン形成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・巨大経済圏の誕生、世界と直結する機会の増大</li> </ul> </li> <li>○ 太平洋側での巨大な災害リスクへの対応 <ul style="list-style-type: none"> <li>・南海トラフ地震、首都直下型地震など</li> </ul> </li> <li>○ カーボンニュートラル <ul style="list-style-type: none"> <li>・2030年度に温室効果ガスを46%削減(2013年度比)</li> <li>・2050年までにカーボンニュートラルを実現</li> </ul> </li> <li>○ SDGsが求める幅広い社会的要請</li> </ul>	<p>■ 脅威 (Threat)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自然災害の激甚化・気候危機 <ul style="list-style-type: none"> <li>・洪水、土砂災害などの近年の激甚化・頻発化</li> <li>・ハード面の災害対策(適応策)の遅れ、限界</li> </ul> </li> <li>○ 地震災害リスク <ul style="list-style-type: none"> <li>・北陸の活断層が動く可能性など</li> </ul> </li> </ul>

# 第1回有識者懇談会の意見の反映(SWOT分析)

## ■ 有識者懇談会の意見の骨子への反映

強み

×

機会



「強み」で「機会(チャンス)」を活かす取組へ

強み

×

脅威



「強み」で「脅威」を克服する取組へ

弱み

×

機会



「弱み」を克服する「機会(チャンス)」と捉えた取組へ

弱み

×

脅威



「弱み」を改善して最悪の事態を招かない取組へ

# 「若者の圏外流出」分科会からの提言(案) の反映

## 若者の圏外流出分科会の提言(案)

### [北陸圏が目指すべき方向]

- 若者が一旦圏外に出て暮らすことは、北陸圏の長所、短所を知る機会にもなるので、肯定的に捉えることも必要。
- 若者が北陸圏で暮らしたいと思えるような寛容性や幸福度が感じられる地域社会を構築していくことが必要。
- 若者が北陸圏に親しみを感じてもらうためには、若者だけでなく、そこに暮らす中高年世代の意識を変えていく事が必要。
- 北陸圏をもっと知るため、様々な世代が、住民主体で行うまちづくり活動などの地域活動に参加すること(シティズンシップ教育)を啓発することが必要。
- 北陸圏に就業・就農を考える若者に対して支えていく仕組みを構築することや北陸圏の企業の情報発信していくことともに、企業の圏外からの誘致や、新産業の育成に取り組むことが必要。

# 「若者の圏外流出」分科会からの提言(案) の反映

## 若者の圏外流出分科会の提言(案)

### [提言]

- 北陸地域に関心を持ってもらうため、北陸圏内外の若者に対し、北陸地域を知る機会、学ぶ機会を増やすこと。
- 北陸圏で就業・就農を検討している若者を支援する中間支援組織を育成することの重要性を発信していくこと。
- UJI ターン希望者を含めた全世代に対して北陸圏に存在している企業の魅力を積極的に情報発信していくことや、企業の誘致・新産業の育成に取り組むこと。
- 中高年世代が様々な世代との交流を体験できるリカレント教育の機会を増やすこと。そこにおいては参加者が様々な立場を体験できるカリキュラムを用意することが重要。

# 「デジタルの活用」分科会からの提言(案) の反映

## デジタルの活用分科会の提言(案)

### [提言 (北陸圏におけるDX推進にあたっての基本的な考え方、取組のスタンス)]

- 北陸圏で急激に進む人口減少・人口流出と、地域の利便性低下、地域経済の衰退等の悪循環に対応するため、あらゆるデジタル技術を徹底活用することにより、リアル空間における生活の質の維持・向上を図ることが重要である。  
※「人々の暮らし」への意見に対応
- デジタルの活用により、公共交通などの様々な地域課題の解決や、農林水産業・製造業・サービス業それぞれの活性化、地域振興を図るためには、産・官・学・地域住民等、あらゆる関係者が連携して取り組むことが重要である。  
また、北陸圏における地域の関連産業・企業間の連携強化を行い、地域経済循環を促進する。  
※「人々の暮らし」「産業振興・地域振興」等への意見に対応
- 地域の自然環境の保全や歴史文化と調和したまちづくりに留意しつつ、テレワークの普及やデジタルを活用した情報発信等により、国内屈指の暮らしやすさや自然、食文化等に恵まれた北陸圏の魅力を最大限活かし、地方移住や二地域居住の促進、関係人口の拡大、広域観光の展開、特産品のPR等の取り組みの推進が期待される。  
※「人々の暮らし(働き方・移住)」「地域振興・観光」への意見に対応

# 「デジタルの活用」分科会からの提言(案) の反映

## デジタルの活用分科会のまとめ・提言(案) (つづき)

### [提言 (北陸圏におけるDX推進にあたっての基本的な考え方、取組のスタンス)]

- デジタルの活用によるカーボンニュートラルの実現や資源の地域循環の取り組み、並びにエネルギーマネジメントの取り組みが重要である。  
※「カーボンニュートラル・環境」への意見に対応
- 防災面においてもデジタルを活用し、除雪作業の効率化や省力化を図るとともに、北陸圏で懸念される自然災害に対して適時・的確な防災情報の提供や被害を最小化するための被害情報の把握・共有等を行い、地域の安全・安心を確保する。  
また、太平洋側での巨大災害に対し、日本海側の中核に位置する北陸圏が支援を行う。  
※「防災」への意見に対応。◎北陸ならではの課題
- 高齢者等への配慮、デジタル活用のメリットを受けられる環境の整備や支援が必要である。  
また、デジタル活用の推進主体に対する支援や環境整備、人材の育成等が課題と考えられる。  
※「取り組み方等」への意見に対応

上記の提言(基本的な考え方、取組のスタンス)を踏まえ、計画(骨子素案)を作成した。



# 次期広域地方計画(骨子)の検討①: 将来像

## ■ 現行計画の将来像 ※二つの将来像を設定

### 【将来像1】

暮らしやすさに磨きをかけ更に輝く 新・北陸

### 【将来像2】

三大都市圏に近接する特性を活かし、日本海・太平洋2面活用型国土形成を牽引する 新・北陸



## □ 次期計画の将来像の設定について

北陸圏の現況と課題、対応方針を踏まえて目指す概括的な方向性を「将来像」として示す。

※「将来像」の検討にあたっては、新たな 全国計画で示された国土の形成に関する基本的な方針等を踏まえることとし、内容を具体的にイメージできるよう分かりやすい表現とする。

「広域地方計画に関する策定の枠組み及び進捗管理等の方針」

R4.3 国土交通省国土政策局 広域地方政策課より

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う社会情勢等の変化は見られたものの、現行計画の目指す方向性自体は変わらないものと考え、現行計画の将来像や目標の理念は踏襲するものとする。

## ■ 次期計画の将来像(案)

### 【将来像(案)】

住み心地・居心地よく、多彩な魅力を活かして躍動する北陸



# 次期広域地方計画(骨子)の検討①: 将来像

## □ 次期計画の将来像(案)

### 将来像 案

## 『住み心地・居心地よく、多彩な魅力を活かして躍動する北陸』

### [北陸圏の現状・課題]

- ・加速的に進む人口減少、特に若者の圏外流出
- ・サービス維持の困難な状況が進む公共交通や医療等の暮らしに不可欠な機能の確保
- ・全国的に激甚化・頻発化する自然災害への備え
- ・サプライチェーンの国内回帰等も見据えた企業・工場の誘致や優秀な人材の確保・雇用促進
- ・北陸新幹線敦賀延伸等を活かした北陸圏のさらなる魅力向上、地域活性化のための交流・関係人口拡大の取組み など



課題への対応を踏まえ、目指す北陸圏の将来像

これまで「暮らしやすさ」が評価されてきた北陸圏において、デジタルの活用などにより、居所・世代・性別・出身地等を問わず、誰もが住み心地(すみごち)、居心地(いごち)がよいと思える北陸の姿、社会経済・人々がいきいきと活動する北陸の姿を将来像として設定。

### 将来像の 具体的な状態

「心」:人々の価値観  
「地」:地域、フィールド

### ↓ 「心地よい」

安全性・利便性が確保され、多様な価値観に応える快適な暮らしの実現

- ・多様な価値観、ライフスタイル、ライフステージに応じた暮らし方ができる。
- ・自然災害に対して安全・安心な暮らしが確保されている。
- ・就きたい仕事があり、経済的にもゆとりが持てる。
- ・保育、教育、医療、福祉が充実し、買い物や交通に不自由しない。時間的制約を受けない。
- ・豊かな自然と人々の暮らしが調和した生活圏の形成。
- ・UIターンや二地域居住など、圏域内外の人々から「暮らす場所」「働く場所」として選ばれる。
- ・地域の特産品(農産物、水産物)や食文化の人气が高まる。
- ・技術革新やニーズの先取りにより、北陸で生産する製造品や技術力の評価が高まる。
- ・サプライチェーンの国内回帰や太平洋側で懸念される巨大災害に対する機能分散も含め、生産拠点や本社・サテライトオフィスの適地として多くの企業が進出する。
- ・ワーケーションや国内旅行、インバウンド等の訪問先として多くの観光客が訪れる。
- ・伝統工芸品や観光資源等の価値の認識が高まる。 など

# 次期広域地方計画(骨子)の検討②: 目標

## ■ 将来像 案

『**住み心地・居心地よく、多彩な魅力を活かして躍動する北陸**』

『**住み心地・居心地のよい北陸**』  
のための目標

**目標 1 個性ある北陸圏の創生**

～生活環境・雇用環境の充実と安全・安心かつ環境と調和した地域づくり～

**目標 2 競争力のある産業の育成**

～北陸の農林水産業やものづくり産業の一層の活性化～

**目標 3 日本海側の中核圏域の形成**

～日本海沿岸圏域及び太平洋側圏域との連携強化～

**目標 4 交流・関係人口の創出**

～北陸の魅力を活かした国内外との対流・交流の創出～

『**多彩な魅力を活かして躍動する北陸**』  
のための目標



目標は現行計画を基本とする

# 次期広域地方計画(骨子)の検討③: 施策

## 目標1 個性ある北陸圏の創生 ~生活環境・雇用環境の充実と安全・安心かつ環境と調和した地域づくり~

### 現行計画の戦略

(1) 親との近接や地域コミュニティを維持するとともに、子育て支援や女性就業、生活サービス支援、犯罪や事故のないまちづくり等、誰もが暮らしやすい生活環境の充実

(2) 本社・研究機能等も含めた働きやすく魅力ある雇用環境や高等教育環境の充実

(3) 多様性と集約性のある都市サービス拠点のコンパクト化と交通ネットワーク充実による持続可能で多様な居住選択機会の提供及び人口誘致

### SWOT分析による見直しのポイント

「強みまたは弱み」 × 「機会または脅威」 ⇒ 取組

・「子育て支援・子育て環境が充実(強み)」  
× デジタル活用(テレワークの普及)  
⇒ 子育て世代の暮らしやすさ・働きやすさのさらなる向上

・「若者の圏外流出(弱み)」  
× デジタルの活用(若者にとって魅力的な仕事や企業、モノや情報の入手)  
⇒ 若者のニーズ(就きたい仕事やライフスタイル)の実現、Uターン促進

・「豊かな自然、地域の歴史・文化(強み)」  
× デジタルの活用(テレワークの普及)  
× 新幹線等の高速交通の整備  
⇒ 関係人口の増加、移住・二地域居住の増加

・「都市の利便性と農山漁村のゆとりを身近に享受できる居住環境(強み)」  
× デジタルの活用  
⇒ コンパクトなまちづくりの実現・拡充

・「人口減少・少子高齢化の進行(弱み)」  
× デジタルの活用  
⇒ 暮らし続けるためのサービスの提供(医療、福祉、交通、買い物等)

### 次期計画の施策

(1) 多様な価値観やライフスタイルに応じた暮らし方・働き方のできる生活環境・雇用環境の拡充・支援

※ 「若者の圏外流出」分科会、及び「デジタルの活用」分科会からの提言を踏まえた見直し

(2) デジタルを活用した「地域生活圏」の形成

※ 「地域生活圏」の概念に包含。趣旨に大きな変更無し

# 次期広域地方計画(骨子)の検討③: 施策

## 目標 1 個性ある北陸圏の創生 ~生活環境・雇用環境の充実と安全・安心かつ環境と調和した地域づくり~

### 現行計画の戦略

(4) 風水害や土砂災害等のほか、地震・津波も含めた更なる災害リスク低減に向けたソフト・ハード一体の防災・減災対策の強化や居住環境の充実

(5) 豊かな自然環境の保全と地球環境問題への対応

### SWOT分析による見直しのポイント

「強みまたは弱み」 × 「機会または脅威」 ⇒ 取組

・「厳しい自然環境・災害リスク(弱み)」  
× ハード面の災害対策の遅れ  
⇒ 安全・安心な地域づくりのさらなる強化

・「厳しい自然環境・災害リスク(弱み)」  
× デジタル技術の活用(情報共有、先端技術の活用)  
⇒ 関係者の連携、ソフト・ハード対策

・「豊かな自然、潜在的な水資源(強み)」  
× カーボンニュートラル  
⇒ 脱炭素と地域循環共生圏の融合

### 次期計画の施策

(3) 安全・安心な地域づくりに向けて、あらゆる関係者が連携・協働し、ソフト・ハード一体となった防災・減災対策の一層の強化・推進

※ 流域治水の取り組みなど、激甚化する自然災害への対応を強化

(4) 豊かな自然環境の保全と地域循環共生圏の形成、脱炭素地域づくり

※ 趣旨に大きな変更無し

# 次期広域地方計画(骨子)の検討③: 施策

## 目標2 競争力のある産業の育成 ~北陸の農林水産業やものづくり産業の一層の活性化~

### 現行計画の戦略

(1) 圏域の食料供給力と地域ブランド力の更なる強化

(2) 集積する同業種・異業種や高等教育機関の接続都市間での対流と交通・ICTネットワーク環境の充実

(3) 太平洋側及び海外企業等の製造拠点・本社・研究開発・研修機能の誘致推進に向けた支援施策や環日本海諸国等海外や国内他地域との経済連携・立地ニーズに応えるPR強化

### SWOT分析による見直しのポイント

「強みまたは弱み」 × 「機会または脅威」 ⇒ 取組

・「農林水産業の担い手不足(弱み)」  
× デジタルを活用したスマート農林水産業  
⇒ 生産性の向上、供給力強化

・「北陸の食材・食文化(強み)」  
× デジタルによる情報発信  
⇒ 高付加価値化・ブランド化

・「ものづくりニッチトップ企業の集積(強み)」  
× デジタル技術  
× 産官学等の連携  
⇒ 競争力強化、スタートアップエコシステムの構築

・「三大都市圏と等距離の地理的条件(強み)」  
× スーパーメガリージョン形成  
⇒ 巨大経済圏との連携強化

・「北陸圏が有する太平洋側のバックアップ機能への期待(強み)」  
× 太平洋側での巨大災害のリスク  
⇒ 災害リスクの分散(企業誘致)の受け皿

### 次期計画の施策

(1) デジタル活用による圏域の食料供給力と地域ブランド力の更なる強化

※ 趣旨に大きな変更無し

(2) 産官学及び企業間の連携とデジタル技術の活用によるものづくり産業の競争力強化

※ 「デジタルの活用」分科会からの提言を踏まえた見直し

(3) 地理的条件を活かした産業拠点の形成と、国内・海外との経済連携や情報発信の強化

※ 趣旨に大きな変更無し

# 次期広域地方計画(骨子)の検討③: 施策

## 目標3 日本海側の中核圏域の形成 ~日本海沿岸圏域及び太平洋側圏域との連携強化~

### 現行計画の戦略

(1) 市場となる大都市圏との取引や物流等を支える、更なる時間距離の短縮や生産拠点等誘致に向けた信頼性の高い国際物流・旅客機能の強化

ネットワーク強化を集約

(2) 太平洋側の防災面に加え産業等機能においても代替性を発揮する防災・産業拠点及びネットワークの強化

### SWOT分析による見直しのポイント

「強みまたは弱み」 × 「機会または脅威」 ⇒ 取組

・「北陸圏が有する太平洋側のバックアップ機能への期待(強み)」  
× 太平洋側での巨大災害リスクへの対応  
⇒ 災害時の物流・交通のバックアップや支援を含む三大都市圏とのネットワーク強化

・「三大都市圏と等距離の地理的条件(強み)」  
× スーパーメガリージョン形成  
⇒ 巨大経済圏との連携強化

産業拠点の形成は「目標2」に集約

### 次期計画の施策

(1) 日本海沿岸圏域及び太平洋側圏域との連携強化のための物流・交通ネットワークの充実

※ ネットワーク強化を集約趣旨に大きな変更無し

目標2  
(3) 地理的条件を活かした産業拠点の形成と、国内・海外との経済連携や情報発信の強化



# 次期広域地方計画(骨子)の検討③: 施策

## 目標4 交流・関係人口の創出 ～北陸の魅力を活かした国内外との対流・交流の創出～

### 現行計画の戦略

(1) 多様な産業、歴史・景観・食文化等に彩られた地域資源の磨き上げと北陸圏内観光周遊ルートの充実

(2) 北陸新幹線やリニア中央新幹線、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした首都圏や欧米豪、アジアの新興国等国内外観光客誘致促進と魅力の発信

### SWOT分析による見直しのポイント

「強みまたは弱み」 × 「機会または脅威」 ⇒ 取組

・「豊かな自然、歴史文化等の観光資源(強み)」  
× デジタルによる情報発信・テレワーク  
⇒ 観光客の増加、観光関連産業の需要拡大  
関係人口の拡大

・「豊かな自然、歴史文化等の観光資源(強み)」  
× 北陸新幹線敦賀延伸  
⇒ 観光客の増加、観光関連産業の需要拡大、  
ゴールデンルート(東京-名古屋-京都-大阪)へと繋がる新たなゴールデンルートとして  
位置づけ

### 次期計画の施策

(1) 伝統産業や、歴史・景観・食文化等に彩られた地域資源の磨き上げと北陸圏内観光周遊ルートの充実、関係人口の拡大

※ 趣旨に大きな変更無し

(2) 北陸新幹線延伸やリニア中央新幹線開業を契機とした圏域内外との新たな交流圏の形成

※ 趣旨に大きな変更無し



# 次期広域地方計画(骨子)の検討④: 計画の体系

## 将来像

(案) 『住み心地・居心地よく、多彩な魅力を活かして躍動する北陸』

## 目標

### 目標1

個性ある  
北陸圏の創生

- (1) 多様な価値観やライフスタイルに応じた暮らし方・働き方のできる生活環境・雇用環境の拡充・支援
- (2) デジタルを活用した「地域生活圏」の形成
- (3) 安全・安心な地域づくりに向けて、あらゆる関係者が連携・協働し、ソフト・ハード一体となった防災・減災対策の一層の強化・推進
- (4) 豊かな自然環境の保全と地域循環共生圏の形成、脱炭素地域づくり

### 目標2

競争力のある  
産業の育成

- (1) デジタルの活用による圏域の食料供給力と地域ブランド力の更なる強化
- (2) 産官学及び企業間の連携とデジタル技術の活用によるものづくり産業の競争力強化
- (3) 地理的条件を活かした産業拠点の形成と、国内・海外との経済連携や情報発信の強化

### 目標3

日本海側の  
中枢圏の形成

- (1) 日本海沿岸圏域及び太平洋側圏域との連携強化のための物流・交通ネットワークの充実

### 目標4

交流・関係人の  
創出

- (1) 伝統産業や歴史・景観・食文化等に彩られた地域資源の磨き上げと北陸圏内観光周遊ルートの実現、関係人口の拡大
- (2) 北陸新幹線延伸やリニア中央新幹線開業を契機とした圏域内外との新たな交流圏の形成

## 施策

## 広域連携プロジェクト\*

- 豊かな暮らしを育む地域生活圏形成プロジェクト
- いきいきふるさと・農山漁村活性化プロジェクト
- 防災技術・地域コミュニティを活かした北陸防災力強化プロジェクト
- 北陸の多彩な自然環境保全プロジェクト
- 脱炭素地域づくりプロジェクト
- 食料供給力増強・食の北陸ブランド展開プロジェクト
- デジタル技術と地理的条件を活かして展開する日本海中枢圏域形成プロジェクト
- 強靱な国土づくりに貢献する広域的な防災体制の構築プロジェクト
- 高速交通基盤を活かした北陸観光交流圏形成プロジェクト

\*広域連携プロジェクトは令和5年度で詳細検討予定